

ちゅうぶちほう 中部地方



地図クイズなど



ながおか
長岡まつり大花火大会(新潟県)



けんろくえん
兼六園(石川県)



くろべ
黒部ダム(富山県)



ふくい駅と恐竜広場(福井県)



うかい
鵜飼(岐阜県)



ぜんこうじ
善光寺(長野県)



ワインセラー
(山梨県)



なごや ほんまるごてん
名古屋城と本丸御殿(愛知県)



オートバイの生産
(静岡県)

写真で眺める
中部地方



↑1 名古屋港の自動車運搬船と自動車 (愛知県名古屋市、2017年) 自動車運搬船は一度に6000台もの自動車を運びます。➡ p.222

なんでこんなにたくさんの自動車が集められているのかな。



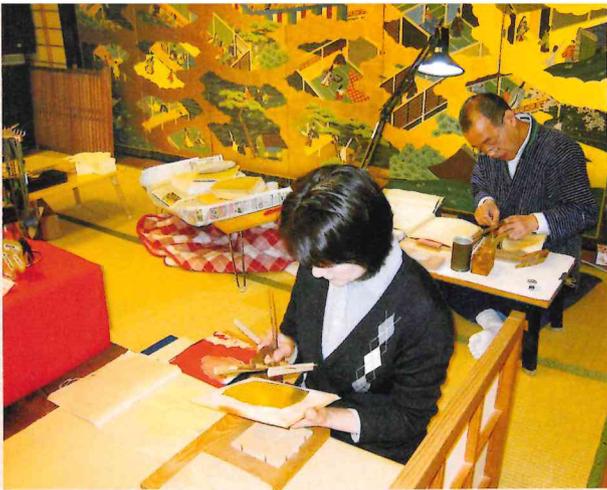
↑2 眼鏡枠の生産 (福井県鯖江市) ➡ p.229



↑3 白川郷の合掌造り (岐阜県白川村、2015年2月) 富山県の五箇山とともに世界文化遺産に登録されています。➡ p.221

↓4 水田が広がる越後平野 (新潟県新潟市、2017年7月) ➡ p.228





↑5 金沢箔の工房 (石川県金沢市) ➡ p.229



↑6 春先の立山黒部アルペンルート (富山県立山町、2022年4月) ➡ p.221

中部地方では、自動車だけでなく、いろいろなモノがつくられているね。



↑7 トイレットペーパーをつくる工場 (静岡県富士市、2020年) 巨大な紙のロールからつくられます。 ➡ p.224



※数字は写真番号を示す。



↑8 初夏の上高地 (長野県松本市、2022年6月) ➡ p.220、226

➡9 甲府盆地を走る山梨リニア実験線 (山梨県笛吹市、2016年4月) ➡ p.223、226



中部地方の学習を見通そう

➡ p.231の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める中部地方」をつくらう

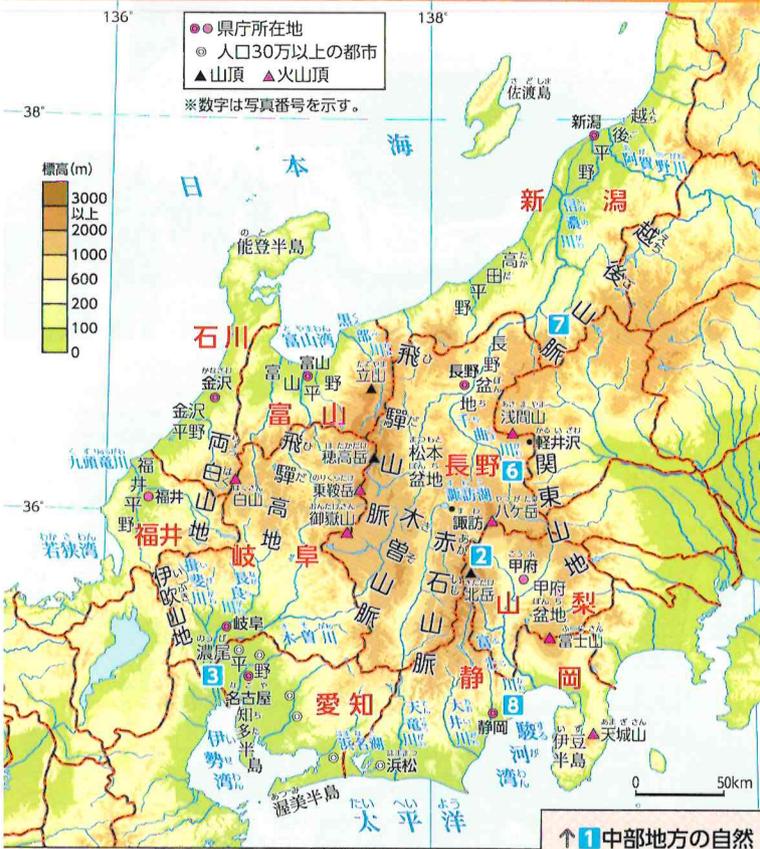
この節では、写真1～9のような中部地方の様子が、特に「産業」の視点とどのように関係しているのかを中心に考えていこう。



見直しスライド



4節の問い 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。



↑2 赤石山脈の山々 (山梨県南アルプス市、2017年8月)



↑3 木曾三川とよばれる木曾川・長良川・揖斐川が流れる濃尾平野の南部 (愛知県・岐阜県・三重県、2020年11月) 小 麗 公

1 中部地方の自然環境



中部地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

日本アルプスを抱く中部地方

本州の中央部に位置する中部地方は、標高3000m級の山々が連なる内陸の高地から、河

川の下流域に広がる海岸近くの平野まで、起伏に富んだ地形が特徴です。中部地方のほぼ中央には、日本アルプスとよばれる飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈があり、富士山や浅間山、御嶽山などの火山も点在しています。

日本アルプスの山々からは多くの河川が流れ出し、太平洋には富士川や天竜川、木曾川などが、日本海には信濃川や黒部川などが注いでいます。これらの河川の上流域や中流域に位置する中央高地は、平地が少ない地域です。そのため、河川に沿うようにして人口や産業が集まり、甲府盆地や長野盆地、松本盆地などの盆地には、地域の中心となる都市があります。河川の下流域には、太平洋側に濃尾

面積	九州	11.8%	13.4%	中部	17.7%	関東	8.6%	東北	17.7%	北海道	22.1%
人口	1億2541万人	11.3%	8.6%	17.7%	16.8%	34.7%	6.8%	4.1%			

(2023年) [住民基本台帳 人口・世帯数表、ほか]

↑4 日本に占める中部地方の割合

→5 中部地方の地域区分 東海には、近畿地方の三重県の一部を含むことがあります。



日本各地に大雨をもたらした2019年の台風19号によって、長野県の千曲川流域は大きな被害を受けました。長野市内では、堤防が決壊して住宅やりんご畑に河川の水が流れ込み、鉄道の車両基地では新幹線が水につかるといった被害もありました。千曲川流域の各地区では、これまでも避難のルールなどを定めていましたが、逃げ遅れて亡くなった人もいました。そのため、長野県では「逃げ遅れゼロ」プロジェクトとして、各家庭がいつでもどこに避難するかを確認する「タイムライン」の作成を推進したり、率先して避難する人材を研修で育成したりすることで、住民みずからが災害の危険を認識して、適切な避難行動がとれるような取り組みを進めています。



→6 災害への備えや避難方法について話し合う研修会
参加者(長野県佐久市、2020年)



↑7 豪雪地帯の商店街での除雪作業(新潟県湯沢町、2020年12月) 雪をよけるためのアーケードが設置されています。小籠公



↑8 みかん畑と富士山(静岡県静岡市、2019年11月) 静岡県は、和歌山県や愛媛県とともに日本有数のみかんの産地です。

平野、日本海側に越後平野や富山平野などの平野が広がっています。濃尾平野は、昔は河川の氾濫に悩まされた地域でしたが、現在では水害への対策(治水)が進んだことによって都市化が進み、中部地方で最大の人口を抱える名古屋大都市圏となっています。

① 飛騨山脈は北アルプス、木曽山脈は中央アルプス、赤石山脈は南アルプスとよばれています。

地図帳活用

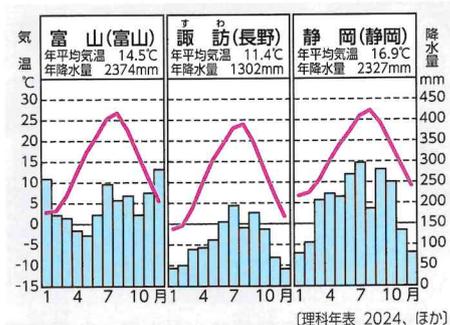
集落を堤防で囲む輪中など、濃尾平野での水害への対策を確認しよう。

5 三つの地域で異なる気候 太平洋側から日本海側まで南北に広く、内陸と海沿いの地域との標高差も大きい中部地方は、太平洋側の東海、内陸で標高の高い中央高地、日本海側の北陸という三つの地域で気候が大きく異なります。

東海は、夏から秋にかけて降水量が多く、冬でも温暖な気候です。

10 そのため、駿河湾沿いの日当たりのよい丘陵などでは、みかんの栽培が盛んです。中央高地は、1年を通して降水量が少なく、冬の寒さが厳しい地域です。夏は盆地を中心に気温が高くなりますが、高原は涼しく過ごしやすいため、長野県軽井沢町など標高の高い地域は、都市部の人々の避暑地となっています。北陸は、冬の北西からの

15 湿った季節風の影響で雪が多く、特に山あいの地域では3~4mもの雪が積もり、世界でも有数の豪雪地帯となっています。大雪になると交通がまひして、日常生活に大きな影響を及ぼします。



↑9 中部地方の主な都市の雨温図

資料活用 降水量の違いに注目しよう。

日本アルプスとよばれる三つの山脈の位置と名称を、図1や地図帳で確認しよう。

中部地方の気候の特徴を、東海・中央高地・北陸に分けて説明しよう。



自動車はどのように製造されているのかな？

↑1 自動車の組み立て工場(愛知県豊田市、2018年) 

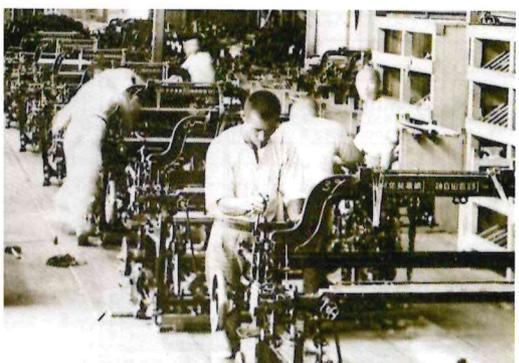
 **自動車会社に勤める人の話**

近年、二酸化炭素の排出量が少ない電気自動車の開発にも力を入れています。一方で、電気自動車はガソリン車よりも部品の数が少なくて済み、これまでのエンジン技術も要らなくなるので、関連工場の閉鎖や雇用の喪失が心配されています。



2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏

4節の問い 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。



↑2 自動車産業の発展の土台となった織物機械の組み立て工場(愛知県刈谷市、1927年)



↑3 輸送機械工業の出荷額 自動車やオートバイなどを製造する工業を輸送機械工業といえます。

 **名古屋市を中心とする地域では、どのようにして自動車などの輸送機械工業が盛んになったのだろうか。**

繊維産業から自動車産業へ 名古屋市を中心とする地域では、江戸時代のころに周辺の農村で栽培される綿花や豊かな水を利用して、繊維産業が盛んになりました。繊維産業の発展とともに織物機械をつくる技術も発達し、その技術を土台にして、自動車の生産が始まりました。自動車産業は第二次世界大戦後に大きく発展し、5

中心となる愛知県豊田市は「自動車の町」として有名になりました。自動車産業は、約3万点もの部品を組み立てて1台の自動車をつくる組み立て型の工業です。そのため、自動車の組み立て工場の周りには、部品をつくる関連工場が数多く集まり、これらの工場から組み立て工場へと効率よく部品が納入されています。

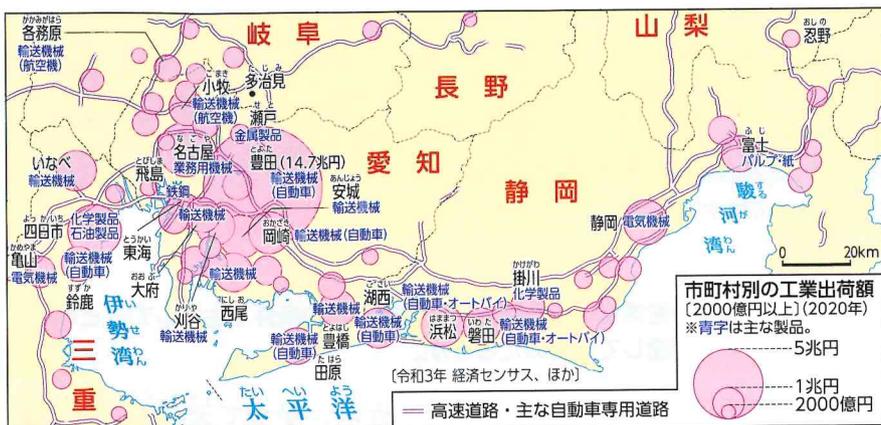
日本最大の工業地帯 伊勢湾沿岸には、愛知県東海市の製鉄所や三重県四日市市の石油化学コンビナートをはじめとして多くの工場があり、海外から船で輸入した鉄鉱石や原油を原料として、鉄板やプラスチックがつくられています。自動車の生産では、これらの製品を用いて多くの部品がつけられ、完成した自動車は、名古屋港などから自動車運搬船で世界各地に運ばれます。

このように、名古屋市を中心とする地域では、輸送機械工業と臨

中京工業地帯の西部に位置する四日市市では、第二次世界大戦後、工業化が進む一方で、工場の排煙や汚れた排水による公害が発生し、特に排煙による健康被害では、多くの住民がぜんそくなどに苦しみました。自治体や工場が協力して環境改善に取り組んできた結果、現在では住民が安心して暮らせる環境を取り戻し、その後も環境を守る取り組みが行われています。例えば「四日市公害と環境未来館」では、展示や公害を経験した住民による語り部の体験談などを通して、公害の教訓を学び、未来に豊かな環境を引き継ぐという意識を育てています。また、「国際環境技術移転センター（ICETT）」では、環境保全の技術をアジアの国々などに伝えています。



↑4「四日市公害と環境未来館」で公害の教訓を学ぶ中学生(三重県四日市市、2023年) **小 歴 公**



↑5伊勢湾周辺から静岡県にかけての主な工業と出荷額

海部の石油化学工業や鉄鋼業が一体となって発達し、中京工業地帯とよばれる日本最大の工業地帯が形成されています。近年では、陶磁器を生産する技術から発展した、愛知県瀬戸市や岐阜県多治見市のファインセラミックス産業や、濃尾平野を中心に工場が集まる航空宇宙産業などの成長が期待されています。

**結びつきを強める
名古屋大都市圏**

東海を中心都市である名古屋市には、国の出先機関や大企業のオフィス、商業施設が集まる市街地が広がっています。名古屋市は、鉄道や道路によって岐阜県や三重県などの周辺地域と結びつき、工業の発達を背景に成長

して、名古屋大都市圏を形成してきました。現在は、東京と京阪神に次いで、日本で3番目に人口が多く集まる地域となっています。交通の大動脈である東海道新幹線や東名・新東名・名神・新名神の各高速道路、中部国際空港などによってさまざまな地域と結びつく名古屋大都市圏は、今後開通予定のリニア中央新幹線も加えて、世界や日本の各地とさらに結びつきを強めています。



↑6ファインセラミックスのできた自動車部品
陶磁器やガラスなどセラミックスのなかでも、高性能なものをファインセラミックスといい、半導体や自動車などに使われます。



↑7ロケットの工場(愛知県飛島村、2021年)
ここで組み立てられたロケットは、種子島(鹿児島県)などへ運ばれ、打ち上げられます。



↑8高層ビルが立ち並ぶ名古屋駅周辺(愛知県名古屋市、2021年)

✓ 中京工業地帯で生産が盛んな工業製品を図5で確認しよう。

名古屋市を中心とした地域で自動車産業が発展した理由を説明しよう。



なぜ、静岡県には茶畑が多いのかな？

↑1 新東名高速道路と富士山のすそ野に広がる茶畑や工場 (静岡県富士宮市、5月) **小歴公**

3 東海で発達するさまざまな産業

4節の問い 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。



↑2 グランドピアノの製造工場 (静岡県掛川市)



↑3 静岡県で生産が盛んな工業製品

地図帳活用
まきの原やあつみ牧ノ原や渥美半島など、東海の農業の特徴を確認しよう。

学習課題 東海の産業は、自然環境や交通網などの条件を生かして、どのように発達してきたのだろうか。

豊かな水を生かした工業 静岡県浜松市付近は、かつて天竜川の上流から運ばれてきた木材を加工する拠点でした。その木材加工技術を生かして、ピアノなど楽器の生産が盛んになりました。第二次世界大戦後は、オートバイや自動車の生産も盛んになり、近年では光センサーなどの光学製品をつくる先端技術産業が注目されています。富士山のふもとに位置する静岡県富士市付近では、豊かな水や広い土地を利用した製紙・パルプ工業が発達しています。また、東京大都市圏に近い静岡県東部では、交通の便のよさを生かして多くの企業が商品の研究や開発を行っています。このように、さまざまな工業が盛んな静岡県の太平洋沿岸は、東海工業地域とよ

水を得にくい地域の農業 台地や丘陵地は水を得にくいいため、昔は作物の栽培が難しい場所でしたが、現在ではさまざまな作物が栽培されるようになってきました。茶の栽培は、温暖で霜が降りることが少なく、日当たりと水はけのよい場所が適しているため、それらの条件に合う静岡県の牧ノ原や磐田原などの台地で茶の生産が盛んになりました。茶畑のそばには、傷みやすい茶葉を素早



↑4 豊川用水とその周辺に広がるキャベツ畑 (愛知県田原市、2020年2月)

茶(荒茶) 7.7万t	静岡 37.0%	鹿児島 34.6	三重 6.8	その他 21.6
福岡				
菊 12億2700万本	愛知 35.7%	沖縄 17.6	5.6	その他 41.1
茨城				
キャベツ 145.8万t	群馬 19.5%	愛知 18.4	千葉 7.5	7.35.1 その他 42.2

(2022年) (農林水産省資料)

↑5 東海で生産が盛んな農作物

乾燥させるための製茶工場があり、製品は国内だけでなく、清水港などから北アメリカや東南アジアへも輸出されています。

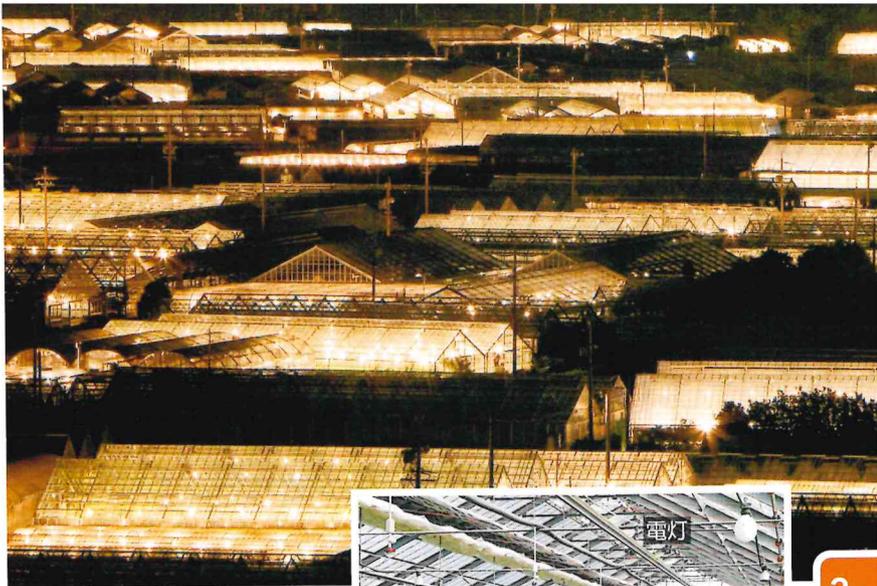
台地や砂丘が多く、水不足に悩まされていた愛知県の渥美半島は、1968年に豊川用水という大規模な用水路が整備されたことにより、

- 5 都市向けに野菜や花などを栽培する園芸農業が盛んな地域へと変化しました。菊は、温室のなかで電灯の照明を当てて(電照栽培)成長を抑える抑制栽培によって、年間を通して出荷されています。静岡県でも、ガラス温室やビニールハウスを用いて、ガーベラなどの花やいちご、メロンの栽培が行われています。冬でも温暖で、温室の暖房にかかる燃料費を抑えることができる東海は、東名高速道路などを利用した都市への輸送の便がよいことを生かして、園芸農業が盛んな地域になっています。

遠洋漁業の基地、焼津

静岡県焼津市にある焼津港は、日本で有数の水揚げ量がある港です。太平洋だけでなく、インド洋や

- 15 大西洋までも漁場とする遠洋漁業の基地として栄え、まぐろやかつおの漁獲量は日本一です。また、焼津港の周辺では、港に水揚げされた魚を缶詰やかまぼこ、かつおぶしなどに加工する食品工業が盛んです。



↑6 菊の電照栽培を行う温室が立ち並ぶ渥美半島(上)収穫作業(右) (愛知県田原市、2018年10月) 対話 p.179 写真5と比較して、栽培している環境の違いを話し合おう。



解説 園芸農業

都市の市場への出荷を目的に、野菜や果樹、花などを栽培する農業のことです。園芸農業には、温室などの施設を使う施設園芸農業や、トラックやフェリーなどを使って農産物を輸送する輸送園芸農業があります。

- 1 菊には、日照時間が短くなると開花する特性があります。夜も照明をつけて昼のような状態をつくり、開花を遅らせませす。



↑7 船上で冷凍されたかつおの水揚げ (静岡県焼津市、2017年) 小鹿公

東海で生産が盛んな農作物を図確認しよう 5や本文から書き出そう。

東海で工業や農業が発達した背景には、どのような共通点があるのか、説明しよう。



↑1 甲府盆地の扇状地に広がるぶどう畑(山梨県山梨市、5月) ぶどうの栽培は、日当たりや水はけがよく、昼と夜の気温差が大きい場所が適しています。



↑2 ぶどうの収穫(山梨県山梨市、2022年8月)

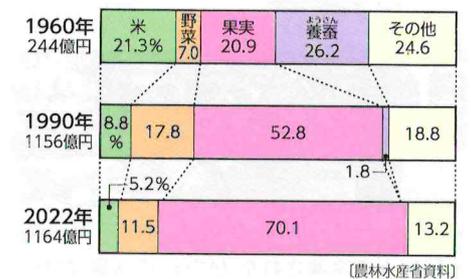
甲府盆地では、昔からぶどうの栽培が盛んだったのかな？



4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり

4節の問い 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

解説 養蚕と製糸業
 養蚕は、桑の葉を餌として与えながら蚕を育て、繭を生産する農業のことです。製糸業はその繭から生糸をつくることで、生糸は明治時代には日本の輸出品の中心でした。



↑3 山梨県の農業産出額の内訳の変化
資料活用 果実と養蚕の割合に注目しよう。

地図帳活用
 ① 甲府盆地の土地利用の変化を確認しよう。
 ② ヤケ岳のふもとでの野菜づくりを確認しよう。
 ③ 諏訪湖周辺の工業地域の変化を確認しよう。

学習課題 内陸で山あいの環境にある中央高地では、時代の変化に合わせてどのように産業が発展してきたのだろうか。

山あいの盆地に生まれた産業

中央高地にある甲府盆地や長野盆地などの盆地には、扇状地が広がっています。扇状地は水田に適さないため、明治時代から昭和時代の初めにかけては、主に養蚕のための桑畑として利用されていました。しかし、化学繊維の普及などによって製糸業が衰退すると、扇状地の日当たりや水はけのよさを生かして、果樹の栽培が始まりました。昼と夜の気温差が大きい内陸の気候は、甘みのある果物をつくるのに適しているため、山梨県や長野県は、現在では全国有数のぶどうや桃の産地となっています。ぶどうを原料にしたワインの生産も盛んで、ぶどうの栽培地の広がりとともに、ワインの新しい産地も形成されています。

こうした地域ならではの農産物を生かした商品・サービスを提供する飲食店や宿泊施設は、国内外の観光客の人気を集めています。近年では、中央高地の自然環境や食文化を求めて、大都市圏から移住する人や、滞在先で休暇を楽しみながら働く人も増えています。

涼しい気候を生かした高原野菜

標高が1000mを超える中央高地の高原は、米づくりに不向きであったため、かつてはそばなどの雑穀や野菜をわずかに栽培する地域でした。しかし、第二次世界大戦後は、食の洋風化などによる需要の高まりをきっか

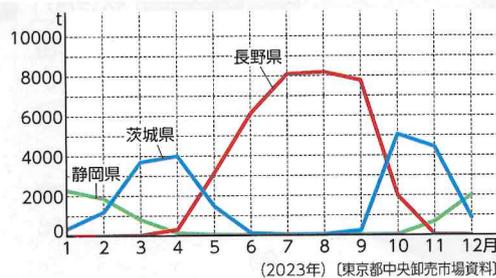


やがたけ

畑を照らすライト



←**4** レタスの収穫(長野県川上村、2022年8月) 午前4～5時ごろに撮影した写真です。 **小 鹿 公** **対 話** 夜明け前から収穫する理由を話し合おう。



←**5** 東京へのレタスの出荷量 **資料活用** 長野県でレタス栽培が盛んな時期に注目しよう。

けに、涼しい気候に適したレタスやキャベツなどの**高原野菜**の栽培が盛んになりました。八ヶ岳のふもとに広がる野辺山原では、涼しい気候を生かして**抑制栽培**を行い、ほかの産地の野菜の出荷量が少なくなる夏の時期を中心に、高原野菜を出荷しています。高速道路が整備されると、早朝に収穫した高原野菜を、その日のうちに東京や大阪の店頭で並べることが可能になりました。

中央高地の工業の変化

長野県の諏訪盆地では、1920年代ごろから製糸業が衰退し始めました。その後、第二次世界大戦中には、空襲を避けるために、大都市から製糸工場の跡地などに多くの機械工場が移ってきました。戦後は、それらの工場でつちかわれた技術を地元の企業が受け継ぎ、この地域のきれいな水や空気が部品の洗浄に適していたこともあって、時計やレンズをつくる精密機械工業が発達しました。

1980年代になると、高速道路の整備が進み、工業製品や原材料の輸送が便利になりました。その結果、長野県松本市や伊那市、山梨県忍野村などの高速道路に近い地域には、電子部品やプリンタ、産業用ロボットなどの工場も進出するようになりました。近年は工場でのきのこの大量生産や寒天の製造など、中央高地の気候を生かした食品の生産も注目されています。

産業用ロボット 1兆4153億円	山梨 32.0%	兵庫 15.6	愛知 13.8	長野 13.1	福岡 13.1	その他 12.4
プリンタ 8426億円	長野 70.8%	福島 9.4	その他 19.8			

(2021年) (2022年 経済構造実態調査)

↑**6** 産業用ロボットとプリンタの出荷額



↑**7** 産業用ロボットを製造する企業の工場(山梨県忍野村)

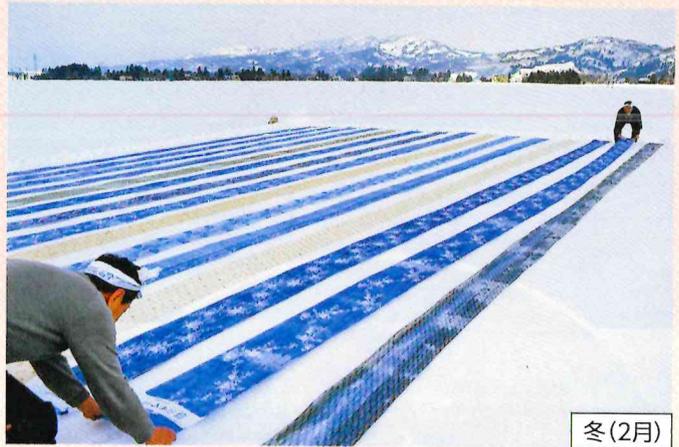
確認しよう 高原野菜の栽培が盛んになった理由を、図5や本文で確認しよう。

説明しよう 中央高地の工業の変化を、「製糸業」「精密機械工業」の語句を使って説明しよう。



秋(9月)

↑1 収穫前の水田
(新潟県小千谷市、
2018年) **小 藤 公**



冬(2月)

↑2 伝統的工芸品 小千谷縮の雪さらし(新潟県
小千谷市) 雪さらしは、染め模様をきれいに
仕上げる重要な作業です。



←3 米菓を生産する工場
(新潟県新潟市、2018
年)

同じ場所なのに、秋と冬で
様子が全く違うね!



5

雪を生かした
北陸の産業

4節の問い 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

地図帳活用

越後平野の農地整備の様子を確認しよう。

解説① 銘柄米

特に優れた品質をもつとして産地や品種が農林水産省によって登録された米のことで、ブランド米ともいいます。最も多く栽培されているコシヒカリは、「越の国(北陸)に光り輝く品種」になることを願って名づけられました。新潟県では、地球温暖化による気温上昇にも適応した「新之助」も栽培されています。

解説② 単作・二期作・二毛作

単作は、1年間に1種類の作物だけを栽培することです。一方で、1年間に1種類の作物を同じ耕地で2回栽培することを二期作、1年間に2種類の作物を同じ耕地で栽培することを二毛作といいます。



学習課題

雪が多い北陸では、自然環境との関わりをなかで、どのように産業が発達してきたのだろうか。

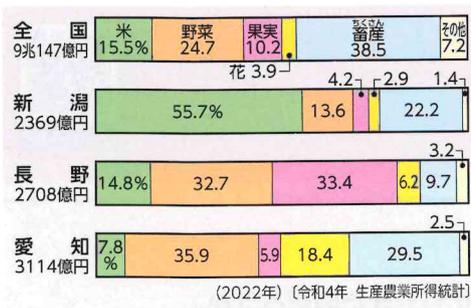
雪どけ水と
越後平野の稲作

冬に雪の多い北陸では、屋根の雪おろしや道路の雪かきなどが住民の負担となる一方で、雪は地域の生活や産業を支える役割も果たしています。

かつての越後平野には湿原や湖沼が広がり、梅雨や台風の時期に起こる洪水に人々は悩まされていました。江戸時代からは排水路が掘られ、干拓が進んで農地が整備されると、春の豊富な雪どけ水が有効に利用できるようになって、越後平野は日本有数の稲作地帯となりました。この地域で多く栽培されるコシヒカリは、北陸で開発された稲の品種です。新潟県の「魚沼産コシヒカリ」のように、よく知られる銘柄米もあります。稲作のほかに、米を原料とした米菓やもち、日本酒などをつくる食品工業も発達しました。

北陸の地場産業
と工業

北陸では、雪に覆われる期間が長いので、米は単作でつくられています。農作業のできない冬の期間は、屋内で作業できる織物や漆器、金物などの工芸品をつくる副業が行われていました。副業でつちかわれた技術を土台にして、現在ではさまざまな地場産業が発展しています。新潟県燕市や三条市の周辺では、江戸時代のくぎづくりから発達した金属加工



↑4 新潟県・長野県・愛知県の農業産出額
資料活用 北陸の新潟県、中央高地の長野県、東海の愛知県で盛んな農業の傾向に注目しよう。
→5 北陸の主な伝統的工芸品



↑6 洋食器を製造する工場 (新潟県燕市)

未来に向けて **芸術祭による地域おこし** **伝統・文化**

新潟県十日町市と津南町の一带では、地域の自然景観や歴史、文化、技術などを題材にして芸術家が作品を制作する芸術祭が開催されています。棚田や廃校となった校舎を利用した作品などが制作され、運営と制作には地域住民やボランティアも参加しています。こうした芸術祭は、現在では日本各地で開催されるようになり、地域資源の見直しや住民参加の地域おこしにつながっています。

→7 田園風景のなかに飾られた芸術作品 (新潟県十日町市、2022年7月)



の技術を生かして、洋食器やアウトドア用品、自動車部品など、暮らしを支えるさまざまな金属製品がつくられています。福井県鯖江市では、農家の内職から始まった眼鏡枠(フレーム)づくりが盛んで、中小企業が作業の工程を分担して製品がつくられています。

5 稲作に使われる雪どけ水は、水力発電や工業用水にも利用され、地域の発展を支えてきました。雪どけ水が流れ込む富山県の河川には水力発電所がたくさんつくり、高岡市の地場産業である銅器の技術と結びついて、大量の電力と水を必要とするアルミニウムの製造が盛んになりました。現在では、輸入したアルミニウムをサッシなどに加工する工業へと発展しています。

加賀藩の文化を生かす金沢市 加賀藩の城下町であった石川県金沢市には、武家屋敷や町家が立ち並ぶ古い町並みや、藩の保護によって発展した加賀友禅や金沢箔などの伝統的工芸品が、地域の文化として受け継がれています。これらの文化に触れるため、金沢市には国内外から多くの観光客が訪れています。今後、外国からの観光客だけでなく、北陸新幹線が福井県敦賀市まで開業したことで京阪神大都市圏からの観光客も増加が期待されています。

解説③ 地場産業と伝統産業

地場産業は、古くから受け継がれてきた技術や、地元でとれる原材料などを生かし、地域と密接に結びついて発展してきた産業のことです。地場産業のなかでも、織物や漆器、陶磁器など、現代の生活でも使われる伝統的工芸品をつくる産業を、伝統産業といいます。



↑8 昔ながらの町並みを残す「ひがし茶屋街」 (石川県金沢市、2022年)

確認しよう 北陸でつくられている伝統的工芸品を、図5や地図帳から三つ書き出そう。

説明しよう 北陸での、雪と産業との関わりを説明しよう。



4節の問い 見方・考え方 地域の特徴(→巻頭8)

中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

節の振り返り1

学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

知識

地図帳活用

1. A～Iにあてはまる県庁所在地名と、その県名を答えよう。
2. ㉑～㉓にあてはまる山脈名と半島名を答えよう。
3. ①～⑦にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

中央高地(→p.221、226～227)

- ・甲府盆地や長野盆地の①では、養蚕から果樹栽培へ変化
- ・野辺山原では涼しい気候を生かした高原野菜の栽培が盛ん
- ・諏訪盆地では、製糸業から②へ変化

北陸(→p.221、228～229)

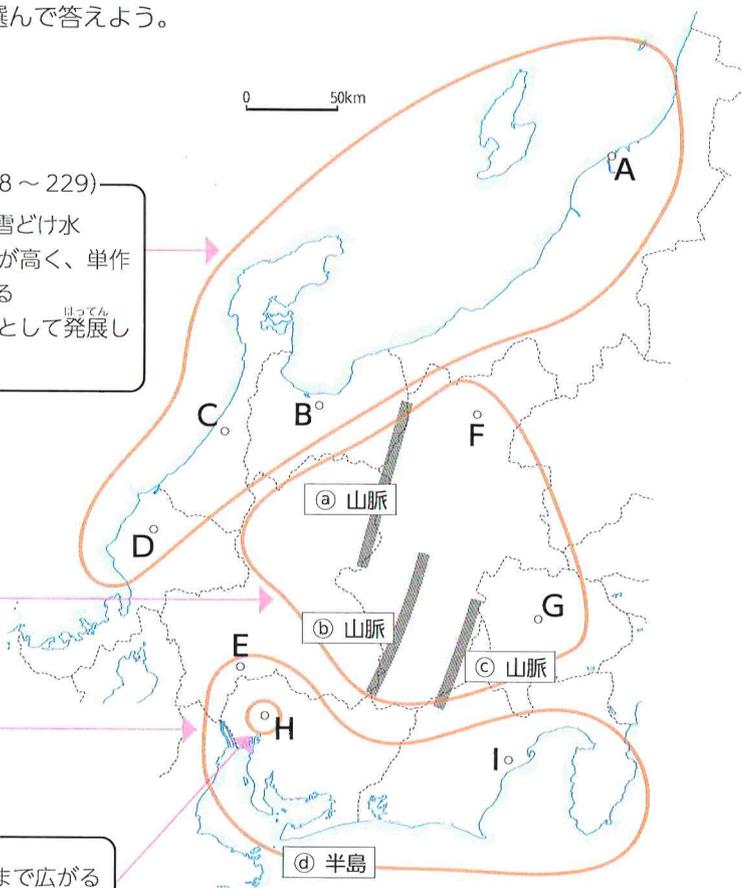
- ・豪雪地帯、豊富な雪どけ水
- ・稲作の占める割合が高く、単作で米をつくっている
- ・農家の冬場の副業として発展した⑥が盛ん

東海(→p.221～225)

- ・豊田市を中心に③が盛ん
- ・名古屋市を中心とする地域で発達した日本最大の工業地帯は、④とよばれる
- ・静岡県の太平洋沿岸はオートバイや自動車、楽器などの生産が盛んで、⑤とよばれる
- ・④半島では、温暖な気候と輸送の便のよさを生かし、野菜や花などを栽培する園芸農業が盛ん
- ・静岡県の台地では茶の栽培も盛ん

名古屋市(→p.223)

- ・岐阜県や三重県にまで広がる⑦を形成



↑1白地図を使ったまとめ

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- | | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 日本アルプス | <input type="checkbox"/> 自動車産業 | <input type="checkbox"/> 園芸農業 | <input type="checkbox"/> 養蚕 | <input type="checkbox"/> 銘柄米 |
| <input type="checkbox"/> 東海 | <input type="checkbox"/> 中京工業地帯 | <input type="checkbox"/> 抑制栽培 | <input type="checkbox"/> 製糸業 | <input type="checkbox"/> 単作 |
| <input type="checkbox"/> 中央高地 | <input type="checkbox"/> 名古屋大都市圏 | <input type="checkbox"/> 遠洋漁業 | <input type="checkbox"/> 高原野菜 | <input type="checkbox"/> 地場産業 |
| <input type="checkbox"/> 北陸 | <input type="checkbox"/> 東海工業地域 | <input type="checkbox"/> 扇状地 | <input type="checkbox"/> 精密機械工業 | |

	東海	中央高地	北陸
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・「木曾三川」など、水量が豊富な河川 ・一方で、水が得にくい台地 ・太平洋側の温暖な気候 	<ul style="list-style-type: none"> ・盆地の扇状地や高原 ・内陸の気候 …夏も涼しい …昼夜の気温差が大きい 	①
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・渥美半島では、水不足に悩まされ、作物の栽培が難しかった ・水はけのよさを生かした茶の栽培 <p>↓ ◀ 交通網、用水の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市向けに野菜や花などを栽培する園芸農業が盛ん ・静岡県では、茶の栽培が盛ん …海外にも輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ・盆地の扇状地では、養蚕のための桑を栽培 ・米づくりに不向きだった高原では、雑穀や野菜などを栽培 <p>↓ ◀ 交通網、需要の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・越後平野には、湿原や湖沼が広がっていた ・梅雨や台風の時期に起こる洪水 <p>↓ ◀ 排水路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪どけ水を利用した単作の稲作地帯 ・銘柄米の生産
工業	<ul style="list-style-type: none"> ・綿花の産地で繊維産業が発展 <p>↓ ◀ 技術力、交通網</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・養蚕が盛んな地域で製糸業が発展 <p>↓ ◀ 技術力、交通網</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後に精密機械工業が発達 ・現在は高速道路に近い地域に産業用ロボットの工場などが進出 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の冬場の副業として工芸品を生産 <p>↓ ◀ 技術力、雪どけ水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属製品や眼鏡枠(フレーム)づくりなどの地場産業が盛ん ・水力発電の電力を生かした産業

↑ ②産業の変化に注目して中部地方をまとめた例 思考ツール 巻頭9 マトリックス

①節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①～③を埋めて、産業の変化に注目した中部地方のまとめを完成させよう。

②節の問いについて、考えを深めよう (対話)

- ◆図2をもとに、中部地方の産業が自然環境や交通網の整備を背景に変化してきたことが分かる写真と、その写真を補足するための資料(写真やグラフ、地図)を一つずつ、教科書や地図帳、ウェブサイトなどから選ぼう。
- ◆グループになって、選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める中部地方(→p.218～219)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

③節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と②をもとに、中部地方の特色を文章で簡単にまとめよう。

4節の問い

○ 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

○ **ヒント1** 中部地方で盛んな産業の特徴と、産業が発展した背景は？

○ **ヒント2** 中部地方の産業にみられる変化と、その背景は？

振り返り **主体的な学び**

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
 - よくできた できた あまりできなかった
 - よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。

時代の変化に対応する産業の創出

未来に向けて

～新たなものづくりに挑戦を続ける浜松市を例に～

情報・技術

8 働きがいの
経済政策

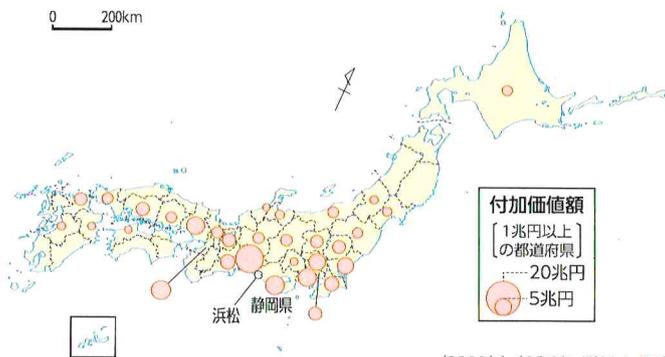


9 産業と技術革新の
高度化を図ろう



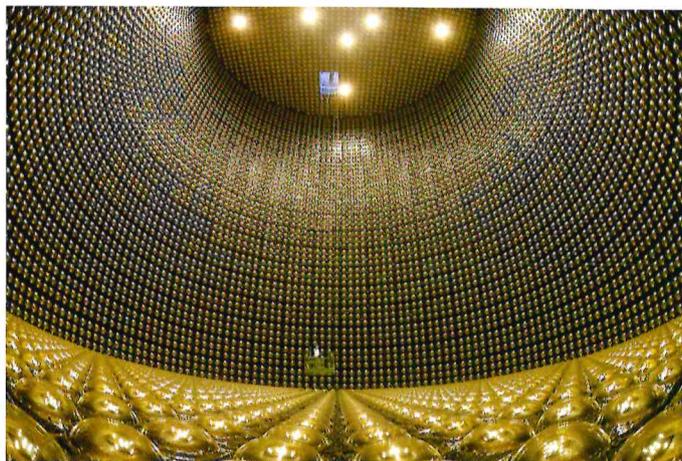
日本企業の海外進出や、価格の安い外国企業からの輸入が増えたため、一部の工業では国内の生産が衰退し、産業の空洞化が進んでいます(→ p.159)。

静岡県のなかでも工業が盛んな浜松市では、産業の競争力を高めるために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

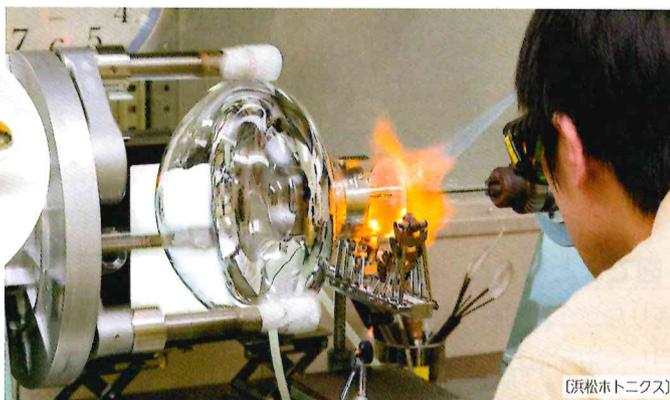


(2020年) [令和3年 経済センサス]

↑1 工業の付加価値額 生産活動によって新たに加えた価値を付加価値といえます。付加価値額は、出荷額から原材料費などを差し引いて求めます。



↑2 光センサー(上)とその製造の様子(右) (2018年)



[浜松ホトニクス]

↑2 ニュートリノ観測装置「スーパーカミオカンデ」(岐阜県飛騨市、2018年) 高性能の光センサーが、壁一面に敷き詰められています。ニュートリノの研究では、日本の科学者がノーベル物理学賞を受賞しました。

人口が減少する時代に入った日本では、地域の持続的な発展のために、産業も時代の変化に対応した工夫が求められています。これに対して、高度な技術によって商品価値を高めたり(図1)、消費者の多様な要求に応じた商品を開発したりする取り組みを行っている地域があります。

静岡県浜松市周辺には「やらまいか」という方言があります。「やらまいか」とは、「何事にも果敢に挑戦してみよう」、「何事もまずはやってみよう」という意気込みを表す言葉です。江戸時代の綿織物や製材から始まった浜松市の産業は、優れた起業家や研究者の技術革新によって発展し、軽自動車やオートバイ、ピアノ、テレビ、木工機械、写真フィルム、国産旅客機、アルミホイールなど、数々の日本初となる製品を生み出してきました。

近年では、テレビに映像を映し出す技術に応用した先端技術産業が発展し、その技術を生かした世界的な企業が浜松市に立地しています。なかでも、光を高感度でとらえる光センサーは、スマートフォンや医療機器のほか、宇宙での星の爆発などで発生するニュートリノ(素粒子の一種)を観測する装置などにも利用されています(写真2・3)。

現在は、既存のものづくりの技術を発展させて、ロボット産業や電気自動車など、次世代型の技術開発を進めるとともに、スタートアップとよばれる起業家の育成にも取り組んでいます。2018年には浜松市が「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs(→巻頭1~2)の実現に向けて、地域の技術力を生かし、産業と環境が調和した地域づくりが目指されています。